

# 進化する 芸術工芸

## Kogei as Contemporary Art :Future Evolution

第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ  
2017金沢・世界工芸コンペティション

3rd Triennale of KOGEI in Kanazawa

2017 KOGEI WORLD COMPETITION  
in KANAZAWA

### 《公募展作品募集》

事業名: **第3回 金沢・世界工芸トリエンナーレ  
2017金沢・世界工芸コンペティション**

作品公募期間: 2016年8月19日(金)まで(必着)

展覧会会期: 2017年1月21日(土)~2月11日(土) 10:00-18:00 ※会期中無休

会場: 金沢21世紀美術館 市民ギャラリーA

料金: 入場無料

作品テーマ: **進化する芸術工芸**

「第3回金沢・世界工芸トリエンナーレ」は、時代とともに変化し拡がる工芸芸術を世界的視野で捉え、表現力豊かな新しい工芸芸術作品を紹介する公募展を行います。

公募展「金沢・世界工芸コンペティション」は、“工芸の新しさ”を世界へ発信する国際コンペティションです。このコンペティションでは、工芸の世界で培われてきた技術を活かし、卓越したコンセプトやアイデアによって生まれた、表現力豊かな芸術作品を求めます。工芸的な技術を極めただけでなく、表現物として、時代のイメージや深層を鋭く捉えた芸術工芸作品を求めます。対象となる技法材料は、陶磁、金属、染織、漆、人形、木、竹、ガラス、革、七宝、紙、その他とします。この公募展を通じて新しい時代を予感させる工芸作品を紹介します。

3rd Triennale of KOGEI in Kanazawa  
2017 KOGEI WORLD COMPETITION  
in KANAZAWA

## 多彩な審査員

### 「世界的なクラフト・工芸のキュレーター、日本を代表する 工芸の専門家、日本の伝統工芸の名匠が選ぶ芸術工芸」



#### ロナルド・ラバコ

インディペンデント・キュレーター、元ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン キュレーター

カリフォルニア大学にて美術学位を取得。バード・グラデュエイト・センター(NY)にてデコラティブ・アート、デザインの美術史を学び、修士号を取得。研究者と歴史家、執筆家としての活動とレクチャーとしても活動を行う。主な展覧会は「MAD HOUSE」(2016年)、「ウェンデル・キャッスル展」(2015年)、「アウト・オブ・ハンド：ポストデジタルの形」(2013年)がある。前任のハイ美術館(アトランタ)においては、20世紀後半から21世紀初頭におけるデザインとクラフトのコレクション収集に従事。また、「建設中：ハイの現代デザインの建築コレクション」(2010年)、「現代のアメリカンクラフト」(2009年)、「対決する：装飾的なアートとデザイン」(2008年)、「トシコ・タカエズ展」(2007年)などの展覧会を行う。ロサンゼルスカウンティミュージアムでは「エトトレ・ソットサス展」(2006年)などの展覧会企画に携わる。



#### チョ・ヘヨン

2015清州国際工芸ビエンナーレ  
展示芸術監督・キュレーター

Courtesy: Cheongju International  
Craft Biennale 2015

1969年韓国ソウル市生まれ。香港やレバノン、クウェート、サウジアラビアでの滞在を経て、西イングランド大学(英国)にて優等学位を取得。梨花女子大学校(韓国)にて修士号・博士号を取得。2004年から国際的な舞台で展覧会企画を行う。主な展覧会に「炎から：韓国の現代陶芸」(米国に巡回)、「変容する伝統：韓国の現代陶芸」(英国のビクトリア・アルバート美術館に巡回)がある。京畿道国際陶磁ビエンナーレ2013では国際委員を務め、2014年に第46回国際陶芸学会の総会における展覧会企画、2015年の清州国際工芸ビエンナーレにおいては芸術監督を務める。特任教授として漢陽大学校などの複数の教育機関で教鞭をとり、国際シンポジウムにおける講演活動も行っている。現在、フランスのリモージュのベルナド財団のゲストキュレーターとして2016年6月に開催予定の韓国の現代陶芸の展覧会を企画。



#### 中川 衛 なかがわ まもる

金工作家、重要無形文化財 彫金 保持者

1947年金沢市生まれ。金沢美術工芸大学産業美術学科卒業。1988年伝統工芸展優秀賞。2002年MOA美術館工芸部門大賞。2001年、2003年伝統工芸展保持者賞。メトロポリタン美術館、大英博物館に作品所蔵。2009年紫綬褒章。日本工芸会常任理事。重要無形文化財保持者。



#### 大樋 陶冶斎 おおひ とうやさい

陶芸家、文化勲章受章者、日本芸術院会員

1927年、江戸時代から続く茶陶の大樋窯九代長左衛門の長男として生まれる。東京美術学校(現・東京藝術大学)工芸科を卒業後、京都国立陶磁器試験所で約1年間学ぶ。文化勲章受章者。文化功労者。日本芸術院会員。石川県名誉県民。金沢市名誉市民。日展顧問。現代工芸美術家協会理事長。米ロチェスター工科大学名誉博士、台湾国立台南藝術大学名誉博士。



#### 唐澤 昌宏 からさわ まさひろ

独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館  
工芸課長

1964年名古屋市生まれ。愛知県立芸術大学大学院美術研究科修了。愛知県陶磁資料館(現、愛知県陶磁美術館)学芸員を経て、2003年に東京国立近代美術館主任研究員、2010年より工芸課長。専門は近・現代工芸史。著書に『差別ガイド日本のやきもの 瀬戸』(淡交社)。主な企画・監修に、「現代の陶芸1950-1990」、「現代陶芸の若き旗手たち」、「人間国宝の日常のうつわもう一つの富本憲吉」、「青磁を極める一岡部嶺男展」、「現代工芸への視点—茶事をめぐって」、「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」など。



#### 秋元 雄史 あきもと ゆうじ

金沢21世紀美術館 館長、  
東京藝術大学大学美術館 館長・教授

Courtesy: 21st Century Museum  
of Contemporary Art, Kanazawa

1955年東京都生まれ。東京藝術大学美術学部絵画科卒業後、1991年よりベネッセアートサイト直島のアートプロジェクトに関わる。2004年より地中美術館館長、ベネッセアートサイト直島・アーティストティックディレクターを兼務。2007年より金沢21世紀美術館館長。「金沢アートプラットホーム2008」、「金沢・世界工芸トリエンナーレ」、「工芸未来派」等を開催。2013年4月～2015年3月東京藝術大学客員教授。2013年4月～秋田公立美術大学客員教授も務める。2015年より東京藝術大学大学美術館館長・教授を兼務。

## 審査員メッセージ

### ロナルド・ラバコ

「ミュージアム・オブ・アーツ・アンド・デザイン(MAD)はクラフトとアート、デザインの領域を越えた芸術性を求め、昨年に現代工芸を主題とする展覧会『工芸未来派』をMADで開催しました。ニューヨークの美術館では初めての試みでしたが、来場者から大変高い評価を受け、今日の工芸に対する世界的な美術的関心の高まりを示しました。工芸未来派の展示作品に一貫していたことですが、私たちは芸術の真価とも言える質の高さを求めます。洗練されたコンセプトと卓越した技術、刷新的な素材の応用に独自の感覚。これは文化的枠組みを位置づけ、また突破させるものでしょう。工芸の未来についての考えを具現化する研ぎ澄まされた創造的表現を期待します。」

### 中川 衛

「今までにとらわれない、  
新しい工芸の姿を求め。」

### 唐澤 昌宏

「今日の美術界を眺めてみると、素材という確固たる物質から離れたところで表現活動が繰り広げられており、物質性が希薄になっているような気がします。近年、日本の工芸が海外でも大きく取り上げられる要因には、素材が導く形や質感など、物質としての存在が、しっかりと表現の中に取り込まれていることがあげられます。確固たる素材、そしてその素材を生かす確かな技術(技)の融合から生み出された工芸的な作品は、まさに確固たるモノとしての存在価値を示すものです。時代を映し出す、まさに今にしかできない『旬』な作品を期待します。」

### チョ・ヘヨン

「清州国際工芸ビエンナーレは世界的にも大きな工芸の国際展の一つで、展覧会と学術会議、国際コンペ、フェアによって構成されます。清州国際工芸ビエンナーレが始まった1999年以来、金沢のクラフトシーンとの友好的な結びつきをもってきました。多くの日本の作家や研究者が展示に招待され、学術会議にも参加しました。2015年には金沢から染織作家の城崎英明氏と漆芸家の山村慎哉氏に参加していただきました。」

現在、工芸文化は、その素材ともものづくりの技術にフォーカスすることへパラダイムシフトしています。科学技術優位の時代において工芸の持続性を問い、同時に未来への発展を見据えることは重要であると考えます。」

### 大樋 陶冶斎

「新しい芸術工芸を待ち望む。」

### 秋元 雄史

「新しい時代を牽引していく、強い表現力を持った工芸作品を期待しています。工芸的な技術をベースにしながら、新しいイメージを紡いでいる、新しい試みをしている、若手のアーティストのチャレンジを期待しています。」

圧倒的な技術力、人を唸らせる表現力、真似のできない巧みな素材加工など、他人にはできない、強い個性を持った作家の皆さんからの応募をお待ちしています。

自分の持てる力の全てをぶつけるように、このコンペティションに応募してください。審査員一同で受け止めたいと思います。」

## 関連企画展・イベント情報

第3回 金沢・世界工芸トリエンナーレ

企画展「金沢の工芸 コレクション展」(仮題)

会期:2017年1月21日(土)~2月11日(土) 10:00-18:00

※会期中無休

会場:金沢21世紀美術館 市民ギャラリーB

トークイベント(詳細未定)

日程:2017年1月22日(日)(予定)

会場:金沢21世紀美術館 シアター21(予定)

料金:入場・参加無料

## お問い合わせ

〒920-0961 石川県金沢市香林坊2-4-30 香林坊ラモーダ 8F

金沢・世界工芸トリエンナーレ 事務局

TEL・FAX 076-234-5250 E-mail:contact@kanazawa-kogeitriennale.com

主催:金沢・世界工芸トリエンナーレ開催委員会

共催:金沢市、金沢市工芸協会、金沢美術工芸大学、金沢21世紀美術館[(公財)金沢芸術創造財団]、金沢市立中村記念美術館、金沢市立安江金箔工芸館

特別協力:北國新聞社

後援:総務省、外務省、文化庁、石川県、金沢商工会議所、石川県伝統産業振興協議会、NHK金沢放送局、北陸放送